

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年1月1日

100号

謹賀新年

パラグアイ川に上る朝陽

謹賀新年

東日本大震災を通して、昨年は自然災害の驚異的な現実を経験しました。一日も早い復興を願ってやみません。

地球は、今日、温暖化という深刻な問題に直面しています。南米のアマゾンとパンタナールは、地球の肺と言われ、地球酸素の供給地です。

しかし、この生態系のバランスが崩れようとしています。いったん崩れると、回復には、長い時間と考えられないような代償を必要とします。

南北米福地開発協会は、パラグアイのレダに拠点を置きながら、この豊かさを万人が享受できるように、今年も、環境保護と環境にストレスのないより良き開拓に一層の努力を傾けるものです。

昨年は、パラグアイ川での乱獲によって減少した魚の養殖に成功、さらに今年は養殖拡大と、インディヘナの人々の蛋白源を提供できるように、魚の放流を開始します。また、豊かな自然を有するレダの地から観光立国のモデル基地建设を進め、エコツアーの足場作りをさらに進めてまいります。

とりわけ森林伐採による荒れ地への植林を入植時からすすめてきましたが、今やその植林をパラグアイ全国へと押し進めています。今日まで、十一回に渡る、国際協力青年ボランティア隊の派遣は、学校建設と教育支援、地域社会の生活上向のため技術支援など、毎年の継続が大きな力となり、国と人々を動かすようになってきました。そして万般これらを支えてくださいました、日本の多くの方々の尊い支援に心から感謝申し上げます。

新年にあたり、この一年が皆様と皆様のご家族様の希望の年となるように祈念いたします。

南北米福地開発協会 会長 神山 威

明けましておめでとうございます。

レダも二〇一一年は、洪水の被害に見舞われましたが、むしろパ
ンタナールの素晴らしさを体験することが出来、大事に至らず対応
出来ました事は、皆様の支えによるものと深く感謝申し上げます。
です。

更に九月には、第十一回国際協力青年奉仕隊のメンバーと共に、
パラグアイ国ルゴ大統領を表敬訪問し、友好な交流の場を持つて、
新しいスタートが切られました。今後のレダは一層国の為に尽くし、
パラグアイを環境先進国と成し、南米のリーダー国へと押し上げて
行けるよう考えています。その為に、

①一層植樹活動の啓蒙実践を展開して行きます。南米最大の森林伐
採最悪国の汚名を返上し、森林再生の先頭を切って、地球環境保護
のリーダー国となるよう、協力して行きます。青年奉仕隊にも期
待をしています。

②魚（パクー）の孵化を成功させ、養殖事業を軌道に乗せると共に、
環境省・水産省と組んで稚魚の放流を積極的に進め、乱獲で魚の激
減による課題に役立てて行きます。

③天然の恵み世界的秘境パンタナールを抱えるパラグアイは、観光
立国を願いながらも、今まで観光客誘致の政策が空回りしてしまし
た。レダがエコツアーを目指す基地となって貢献して行きます。

④レダは、青年研修や指導者教育の研修を成せるよう、基盤を強化
し実践して行きます。

⑤レダの経済的自立に向けて、魚養殖と共に、牛や豚の牧畜の生産
に努力して行きます。

⑥今後とも、上記のプロジェクトを推進して行くことで、近隣の村々
からの雇用を継続し、地域の経済的發展に寄与し、従来の教育支援
活動も継続して行きます。更にこの地域の風土病を克服するため、
農業活動を通じて、地域の食生活改善の道を支援して行きたいと思
います。

これらを実践するに当たっては、皆様のご指導、ご協力が全面的
に必要です。経済は勿論、優位な人材の投入も急務です。

共に希望を持って素晴らしい一年として行きましょう。
皆様のご健勝を心より祈念しております。

二〇一二年一月一日

レダプロジェクト現地責任者 飯野貞夫

写真で見る2011年の活動記録



5月から8月までパラグアイ川の水位が上昇しレダ基地は洪水に見舞われる。



第11回青年奉仕隊パラグアイルゴ大統領訪問
飯野氏ルゴ大統領に本を贈呈（9月6日）



近隣のインディヒナの村への栄養源の
確立と環境にやさしい魚の養殖の確立



レダ経済自立と環境との
共生を目指す牧畜の確立



東野氏、レダに十一月二十四日到着。一年間シニアボランティアで滞在予定
『レダでの二週間の感想はどうですか。』
生活の環境はりっぱに整って快適になりましたね。これから事業の立ち上げの可能性が見えてきて大変希望を感じています。
『特に感動したことはありますか。』
パクを釣らせてもらいましたが、日本では釣り船でもなかなか体験できない、ググーとくる大きな引きのだいご味は最高ですね。豊かな牧草地のある牛の放牧、多くの豚が元気に育っている姿にも感動しました。
『今後の抱負は？』
これから孵化に成功して、多くの魚を育て、川に放流できれば大きな影響を与えられますし、事業として展開できる道も大きく開けます。牛や豚を通じての販売事業も具体化しそうで、新しい次元のレダ開発が始まる良い時に来たと喜んでいきます。そして、現地のスタッフに力を与えられる美味しい野菜作りに挑戦したいと思っています。

日本での野菜作りの経験を生かし、レダで栽培の改善をなされています。
十二年前に四十日ほどレダに、滞在し、念願のレダでの長期ボランティア活動に大きな期待を持っています。

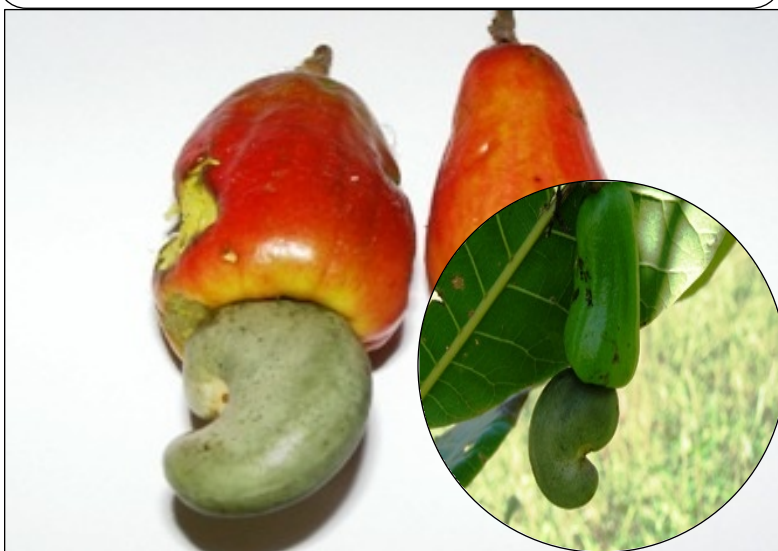
孵化設備の充実
二〇一二年の一月二日にアスンシオン大学のマクロ教授を迎えてパクの孵化を行う計画なので、時間に追われるようにして必死の作業が行われています。
親魚を入れる水槽とその周辺の整備、孵化器と水槽に供給する水の排水システム作り（一階の親魚を入れる水槽の床に排水システムを作つてセメントを打ち、水が流れやすくしています。）孵化した稚魚を入れる池の準備などを、中田先生が先頭に立って同時進行で仕事が行なわれています。
クリスマスを迎えて労働者の人数も大きく減るので、待ったなしです。
二階のタンクに濾過した水を温度を調整しているところ（写真）





朝夕の餌やりは欠かさず行っています。各池の魚の食べ具合をみながら、餌の量を調整したり池に川の水を入れたりします。ワニが入る場合があるので注意が必要です。魚が飛び出してきて勢いよく食べる時が一番心の満たされる瞬間です。

中田先生が2年前にアマゾンから持ってこられたカシュールナツツの種から成長した木から、初めて実がなりました。



青木先生の1日

レダにいられてすでに1年3カ月になられる青木先生は70歳の年齢を思わせない元気さでパクの世話を中心に精力的に働かれています。アスンシオンで医者にもってもらった時にもっと肉を食べたらよいと言われて、鉄分の不足を心配されていましたが、レダでは毎日のように肉が出ますし、新鮮な野菜や果物、ヨーグルト、日本味のみそ汁と食欲も出て、体重も変わりません。空気のきれいな環境で規則正しい生活は健康にとっても良い効果を与えています。

それに日本で趣味で行っていた釣りをこちらでは仕事の担当として任せられているので、好きな事をしながら、レダプロジェクトに貢献できると喜んでおられ、心身共に満たされた毎日ですと喜んでおられます。

特に今回、東野先生が来られ力強い協力者ができ一層仕事に力がはいります。



1kgを超えるマンゴーの果実

南北米福地開発協会 事務局
〒221-3100-01
神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F
電話 044-821-2821
Fax 821-2820
会費納入 郵便口座
10180177680471
代表 柴沼邦彦
E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ
<http://www.asd-nsa.jp>

南北米福地開発協会
会員の募集中
地球家族として
自然を守りましょう
南米、パラグアイ、パンタナール地域
へのエコツアーならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。
会費は月五〇〇円、
毎月、パンタナール通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー等の
案内をいたします。